

活動① 『普通の寒天』

活動テーマ

- ・寒天を用意して、感触を楽しんでみる

活動内容

- ・普通の硬さの寒天を用意してその感触を触ってみる。
- ・少人数で行い、ゆったりと関わってみる。

子どもの姿からの気づき

- ・初めて見たときは驚く様子も見られ、少し遠巻きに見ていました。保育者が触って見せると少しずつ表面を触り…その次に指で刺してみる子どもたちの姿が出てきました。

触った瞬間の子どもたちの表情は、言葉では言い表せないような高揚感でいっぱいでした。

指が入った時の感触をととても楽しみ、触りながら「つめた〜い」と笑顔でいっぱいです。

- ・指で刺した後は少しずつ崩し始めていました。少し躊躇している子どもたちは保育者が切って渡すことで崩すことを楽しむ様子も見られています。

最終的には手全体で崩すことを楽しみ、最後は腕まで入れて泳ぐように感触を楽しむ姿もありました。

とても気持ちよさそうで、面白かったです。

振り返り（次回のテーマ、どんな環境設定をするか）

氷や水とは違った固さを楽しみ、それが崩れていく様子なども楽しんでいました。

いつもとは違う感触の高揚感を楽しんでおり、回数を重ねることで子どもたちの発見になにがあるのかみていきたいと思えます。



活動② 『普通の硬さの寒天②』

活動テーマ

- ・寒天を用意して、感触を楽しんでみる

活動内容

- ・普通の硬さの寒天を用意してその感触を触ってみる。(二回目も)
- ・少人数で行い、ゆったりと関わってみる。

子どもの姿からの気づき

初めて触った子どもたちもいたので、最初は表面を触っているだけでその時に、

「つめたいっ」とうれしそうにしていました。

最初の時よりも不安感が消えたようで、すぐに触りに行く姿があり、一回目よりも崩しに行くまでの時間が早く、指をさしたりして楽しんでいました。

寒天の感触はとても気持ちいいのか、今回も腕まで浸かって楽しむ姿もあり、とっても喜んでいました。

まだ怖くて触りたがらない子どももいたので、数回行っていく中で、感触の楽しさを感じられるようにしていきたいと思っています。

振り返り(次回のテーマ、どんな環境設定をするか)

・二回同じ硬さで楽しんだので、次回、違う固さも用意して硬さの違いも楽しんでみようとっていたのだが、今回楽しんでいる様子を見ると、一回今回よりも柔らかい寒天を用意して楽しんでみることで子どもたちの反応の違いを見たいと思いました。

・いつもとは違う感覚を楽しんでおり、水とは違った楽しみ方をしていた。崩すということが面白かったようで、思いっきり崩している様子がありました。次回硬さを変えた時に、どのような反応をするのか楽しみです。



活動② 『普通の硬さの寒天②』

活動テーマ

- ・前回寒天あそびをした経験から色を変えて行ってみる。
- ・経験していない子どもは触れてみる。

活動内容

- ・普通の硬さの寒天を用意してその感触を触ってみる。(二回目も)
- ・少人数で行い、ゆったりと関わってみる。

子どもの姿からの気づき

初めて触った子どもたちもいたので、最初は表面を触っているだけでその時に、

「つめたいっ」とうれしそうにしていました。

最初の時よりも不安感が消えたようで、すぐに触りに行く姿があり、一回目よりも崩しに行くまでの時間が早く、指をさしたりして楽しんでいました。

寒天の感触はとても気持ちいいのか、床に落とした寒天を足で踏んで崩れる感触が気持ちいいのか繰り返しあそんでいました。

その姿からタライを用意し、その中で寒天を踏んでみるという活動に発展して子どもたちも集中してあそんでいました。

まだ怖くて触りたがらない子どももいたので、数回行っていく中で、感触の楽しさを感じられるようにしていきたいと思っています。

振り返り(次回のテーマ、どんな環境設定をするか)

- ・二回同じ硬さで楽しんだので、次回、違う固さも用意して硬さの違いも楽しんでみようと思っていたのだが、今回楽しんでいる様子を見ると、一回、今回よりも柔らかい寒天を用意して楽しんでみることで子どもたちの反応の違いを見てみたいと思いました。

- ・いつもとは違う感覚を楽しんでおり、水とは違った楽しみ方をしていた。崩すということが面白かったようで、足の裏でしっかりと踏んで潰れる感触を思いっきり楽しむ様子がありました。

次回硬さを変えた時に、またどのようなあそびに発展をするのか楽しみです。



活動③ 『やわらかい寒天』

活動テーマ

- ・ 前回よりも寒天を用意して、感触を楽しんでみる

活動内容

- ・ 柔らかめの寒天を用意してその感触を触ってみる。
- ・ 少人数で行い、ゆったりと関わってみる。

子どもの姿からの気づき

休みが重なってしまい、まだ行ったことのない子どもたちも初めて触ることが出来ました。

寒天の冷たさに驚いている面とうれしそうにしている様子と両方あり、少し崩してあそびたのしむことができました。

隣のももぐみの子どもたちとの遊び方の違いに驚きましたが、最初はゆっくりとした時間の中で

あそぶことができるということが子どもたちにとってもよい環境となっていたと思います。

ただ、やはり触ることが苦手な子どもたちもいました。寒天によって手が汚れることをこわがっている様子も

見られました。そこで、ビニールを使用してみると、少し触ることが出来ていました。

振り返り（次回のテーマ、どんな環境設定をするか）

寒天を行う上で、ももぐみの子どもたちのあそび方を見ることができる環境にするのもよいのかもしれない、

と思います。そこで、部屋を分けるのではなく、パーテーションを使用して場所を分けることで

自分がやりたいように興味が向いた時にどちらでもあそぶことができるようにするのもよいかもしれないと

思います。

また、それに伴い、スライムをビニール袋の中に入れて部屋に設定しておくことで、抵抗感が薄れるように

設定してみて、その後のあそび方がどう変化していくのか見守っていきたいと思います。

